

原発 ゼロ にむかって

2012年8月22日 No.30

<http://www.tokyominiren.gr.jp/>

編集・発行／東京民医連事務局 tel: 03-5978-2741 fax: 03-5978-2865 mail: sien@tokyominiren.gr.jp

東都協議会

福島支援バスツアーに42人が参加

東都保健医療福祉協議会として、福島原発事故による放射能汚染の実情と福島民医連の取り組みについて学ぶために、7月29日(日)から30日(月)に福島支援バスツアー(以下、支援ツアー)を職員・友の会員42人の参加で実施しました。

29日は、福島農民連の産直カフェに立ち寄った後に、福島医療生協・わたり病院で、福島医療生協の取り組みと、福島での子育ての実情について話を聞きました。

わたり病院の事務長さんから、医療生協として原発による放射能の影響についての学習会に力を入れ述べ6000人が参加したこと、職員が震災のなかで自宅がどうなっているのか心配しながら、病院に泊まりこんで入院患者や外来患者への対応、避難場所への医療支援を行った様子が話されました。

また、看護師から、看護師が「本当に申し訳ない」といって避難していく中で、医療活動を続けてきたこと、3人の子どもを育てながら福島に残り頑張っているお母さんから福島に残る決断をした苦悩などについて話を聞きました。

30日は浜通り医療生協の伊東理事長から、今回の原発事故は「人類史上最大で最悪の公害」であるとし、原発事故の起きた当時の様子や苦悩などについて話されました。

そして、今回の原発事故により16万人以上が住み慣れた故郷と仕事が奪われ、人生が狂わされ、今なお多くの方が避難し続けて、何時帰れるか分からない中で生活をしている現状から見て、原発は直ちに廃絶にしなければならないことを強調されました。

また、伊東理事長は、バラバラになった浪江町の子どもが浪江町の町長さんに寄せた言葉を紹介してくれましたが、「大人になったときに浪江町はあるのでしょうか」「友達と勉強や遊びがしたい」との言葉には胸がつまる思いがしました。

「マスコミの報道では見えてこなかった福島の実態がよくわかった」



広野町20km圏

参加者からは、「マスコミの報道では見えて来なかった福島の実態がよくわかりました」「医療従事者の一人として、仕事を通して様々なことを学び、被災地と連帯をしなければと思いました」「原発廃絶に向けて地域で頑張りたい」「被災地を現実に見て聞いて実態の本質を理解できました」などの感想が寄せられています。

今回の支援ツアーを実施し、こうした支援ツアーを多くの法人・共同組織で実施すること、また1回限りでなく継続して実施することが重要だと思いました。(東部東葛ブロック 中村和司)